

本 会 記 事

Burks 教授講演会

ミシガン大学教授 Arthur Burks 博士は印度へ旅行の途中にわが国に立ちよったので、1月30日(水)午前10時から船舶振興ビルで「Automata Models of Self-Reproduction」につき講演会を開いた。出席者120名。なお同講演の内容については、近く学会誌に掲載の予定である。

○研究委員会報告

SC 研究委員会 (第11回)

(6月10日(木), 於 日本電子工業振興協会)

Real-time data processing systems につき, 安部勲夫氏(富士通), Method of control for re-entrant programs を武田謙吉氏(日電), および Attitudes and the man-computer relationship を中西俊男氏(鉄研)がそれぞれ紹介した。出席者16名。

EDPS 研究会

(5月26日(水), 於 電気試験所)

岡田猛弘氏(日本RR)が前回に続いて、「UNIVAC 1107 EXEC-II」について、とくに780K語X3のドラムの構成, 実行時のデータの入出力装置, コア, 磁気ドラム間の移動等を説明した。Process limit ということを前提にしているので, ユーザのプログラムの多重処理はできない。ただカード・ツウ・プリント程度のいくつか指定されたものだけユーザのプログラムと同時に処理できる。各個人の固定観念がわざわざいして, なかなかスッキリと理解できなかった。出席者10名

(6月23日(水), 於 電気試験所)

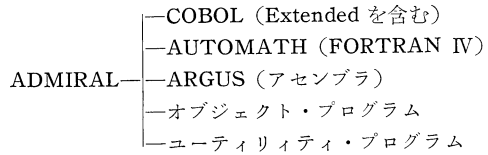
(1) EXEC-II について。(説明書: 岡田猛弘氏)

UNIVAC-1107 のオペレーティング・システム・EXEC-II について前々回からの続きで, 入出力装置の割りつけ方, 実行プログラムからモニターへの帰えり方, コントロールカードの種類とその機能などについて説明があった。

(2) NEAC-2800/3800 アドミラル(説明者: 青柳律夫)

NEAC-2800/3800 は金物で入出力の traffic control と8個までのマルチプログラムが可能な計算機で, そのオペレーティングシステム・ADMIRAL (Auto-

matic Dynamic Monitor with Immediate Relocation, Allocation and Loading) の構成はつぎのとおり。



そのおもな機能は, dynamic scheduling, automatic allocation, プログラムの loading と relocation および diagnostic dump と program restart の4つである。さらに次回につづく予定。出席者10名

COBOL 研究会

(5月26日(水), 於 電気試験所)

(1) FONTAC COBOL について。(説明者: 丸山武)

16K語の半分ほどがモニタや IOCS に占有される。コンパイラはテープ4本使い。全体で3万語ほどになる。桁の扱いは byte counter でかなり楽になった。入出力はトランスミットモードでやるが, ダブルインデックスがいやだったからである。データのクラス Kana ピクチャKをもうけ, シフトコードをコントロールする。外部の名前を External, 外部から参照される名前を Global で指定して, Perform で外部プログラムをつなぐ。なお Endcobol 命令が必要だった。

(2) COBOL と FORTRAN の共用。(説明者: 大駒誠一)

CACM 1965-4 にでた二つの論文を紹介した。数値計算的な部分は FORTRAN が, 編集や入出力は COBOL が得意としている。IBM 7090 の IBJOB モニタについている二つのコンパイラで実験した。COBOL の主ルーチンをよぶことは, データの表現に気をつければさして不自然はない。FORTRAN から COBOL をよぶと, ファイルの Open, Close などかなりおかしな形になりそうである。出席者10名

(6月23日(水), 於 電気試験所)

文献紹介4件: 西村恕彦

(1) Code Structures (CACM, Jan. 1965) 可変長データのための符号構成についての二, 三の着想について述べた。

(2) Symbol Tables (CACM, Feb. 1965) Identifier を乱数化し, ルック・アウトすると索表が早くできる。

(3) Fortran 対 Cobol (Datamation, Aug. 1964)

入出力システムをつくわえた Fortran のほうが少しはよい。習得はずっと容易である。

(4) Cobol 対 Fortran (Datamation, Apr. 1965) 普通のデータ処理では、Cobol は他のどのシステムにくらべても同等以上のはやさである。しかも融通性の点ではるかにまさっている。出席者 10 名 (以上の 4 件は本誌の文献紹介欄にのせる予定)

関西支部

40 年度第 1 回評議員会の報告

6 月 8 日 (火) 午後 5 時から大阪科学技術センターで開催した。出席者は城支部長以下 24 名 (内委任状 13 名)。まず、支部長として城憲三氏 (阪大) を再選し、つぎの事業計画を全員一致で決定した。

(1) Bank Automation についての講演会

(a) 米花 稔氏講演会
(b) 業界側からの実例発表会

時期 10 月, (なお大阪工業会コンピュータ研究会共催)

(2) 見学会

(a) 武田薬品工業(株)の計算センタ (9 月~11 月)
(b) 三菱電機(株)北伊丹製作所 (7 月中旬)
(なお大阪工業会コンピュータ研究会と共催)

(3) IFIP 報告会

講演者 坂井利之 (京大) (8 月)

(4) 研究会 (原則として毎月 1 回)

(a) 数値解析研究会
(b) システムソルビング研究会

○研究会の報告 (6 月度例会)

6 月 23 日 (水) 午後 3 時から大阪科学技術センターで開催した。まず百田不二男氏 (三菱電機中研) が「Baristow 法における多重根の処理の一方法」につき報告し、ついで西山 魏氏 (三菱電機中研) が「放物形偏微分方程式の解法例 —— 不連続媒体中の熱伝導」につき報告した。出席者 16 名。

○研究会の会告

システムソルビング研究会 (主査: 横山 保) の運営方針は下記のとおりを予定している。

1. 方針概要

〔昭和 40 年度〕“Computer and Thought” (Mc-GRAWHILL 発行) の輪読。

〔昭和 41 年度〕Information processing language

〔昭和 42 年度〕個別的な問題へのアプローチたとえば、経営問題解決のための言語の分析。

2. 開催要領

日時 40 年 7 月から、毎月第 4 水曜日

場所 生産性関西地方本部会議室

連絡先 (社) 情報処理学会関西支部事務局 (電話大阪 441~8681 代表)

会 告

○研究委員会

SC 研究委員会

日時 昭和 40 年 7 月 22 日 (木) 14.00~

場所 日本電子工業振興協会会議室

議題 1. 製鉄制御システム計画について
伊藤 実 (川鉄)

2. 文献紹介

(a) 製鉄所における自動制御
金山 裕 (日立)

(b) Real-time data processing systems
(5~6 章) 井上晴雄 (鉄研)

EDPS 研究会

日時 昭和 40 年 7 月 21 日 (水) 10.00~

場所 電気試験所会議室

議題 1. NEAC 2800/3800 アドミラル (その 2)
青柳律夫

2. UNIVAC 1107 EXEC-II (続き)
岡田猛弘

3. Auerbach の機械評価 吉村鉄太郎

4. IBM 360 オペレーティングシステム
渡辺 元

COBOL 研究会

日時 昭和 40 年 7 月 21 日 (水) 14.00~

場所 電気試験所会議室

議題 1. FACOM 230-10 コボル 渡辺昭雄
2. NEAC COBOL 辻 雄介

○情報処理月例会

日時 昭和 40 年 9 月 21 日 (火) 15.00~

場所 船舶振興ビル 10 階

演題 Time Sharing について 穂坂 衛 (東大)